

■堂野智史氏ヒアリング記録

日時:2021年1月19日火曜日 15時00分～17時00分

ヒアリング対象:クリエイティブネットワークセンター大阪メビック 所長 堂野智史氏

参加者:水都大阪コンソーシアム 渡部

一般社団法人水辺ラボ 杉本・廣井

大阪の産業振興と課題解決のため、社会とクリエイターが出会う場を作り続けている堂野智史さん。東横堀川の新たな水辺拠点『β本町橋』を中心に、クリエイターの関わりの可能性についてお話を伺いました。



1962年大阪府生まれ。財団シンクタンク研究員を経て、2003年5月扇町インキュベーションプラザ所長兼IMに就任。2010年4月組織変更により現職に。2003年6月産学官民の有志とともに、関西ネットワークシステム(KNS)を立ち上げ、フラットな関係性に基づくインフォーマルコミュニティ活動に奔走中。関西大学文学部非常勤講師、奈良県立大学兼任講師、地域産業おこしに燃える人(第2期)、岩手県「希望郷いわて文化大使」、大阪府「MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)活性化委員会」委員長等を歴任。

ネットワークを広げてコトを生み出す事業は、目に見える形で成果を伝える工夫が必要。

- メビックは地域に密着して活動されていますね。

(堂野)

メビックの責任者となり今年で18年になります。所長に着任してからは、企業やクリエイターを一つ一つ発掘していきました。やがて対象エリアは北区から大阪市全域に、さらに大阪府下全域に拡大しました。予算が減りスタッフも増えないのに大変でした。

- 限られたスタッフで府下全域をカバーするのは大変ですね。事業が安定してきたのはいつ頃ですか。

(堂野)

最初の3年間はとにかく厳しかったです。7～8年経つと段々軌道に乗ってきて、カンテレ扇町スクエアに移転した2011年頃からやっと安定してきました。

- 何がきっかけで事業が安定したのでしょうか。

(堂野)

企業やクリエイターの仲間が増えたことで、事業を展開しやすい基盤が整いました。メビックは、所長をはじめ6人中4人が初期メンバーで、長年培ってきた関係性がベースにあるので、現在運営ができています。もしも3年ごとに所長が変わっていたら今の姿はなかったと思います。

- 着実に成果をあげられていますが、ネットワークづくりはパッと見て成果が分かりにくいという面もあります。運営で工夫されていることはありますか。

(堂野)

メビックでは事業の成果として、毎年1年間の成果をまとめた冊子『コラボレーション事例集』を作っています。なにか自分たちの武器になるような成果の見せ方の工夫があるといいと思います。

この界限は、小学校も地元の人々が寄付するような伝統があります。e-よこ会の活動で出会った人たちを中心に、地域に対して、この場を20年間盛り上げる志をしっかりと伝え、まちのコア施設として支えてもらうことが大事です。例えばスタンフォード大学では、寄付者の大きい銅板プレートを壁一面に掲示しています。寄付や協賛の気持ちがわかりやすく伝わる工夫が必要ですね。資金・スポンサーを集めたり、プロジェクトのクラウドファンディングなどもやってみてもいいと思います。

オンラインの出会いでは、新しい価値が生まれにくい。顔の見える関係性がますます大切に。

- メビックは2020年3月に大阪産業創造館に移ってこられました。ちょうどコロナの感染拡大の大変な時期と重なります。メビックも影響を受けられたのでしょうか。

(堂野)

大変大きな影響を受けています。メビック扇町の時は100人~150人が普通に集まりました。今はソーシャルディスタンスを保つために利用制限がかかり、同じ広さでも20-25人までしか集まれなくなりました。リアルの出会い、無駄も含めた時間の中にこそ価値があります。私たちも当初は直接会うことが出来なくなり、オンラインでミーティングを行うようになりました。しかし、オンラインはある程度知っている者同士にとってはとても便利なツールですが、コロナがオンラインでは感染しないように、オンラインで知らない者同士が新しい事業を始めましようとはなりにくいと思います。オンラインイベントも同じで、参加をしたというだけではそこから新しい価値や行動にはつながりません。画面が消えた瞬間に名前も連絡先もわからなくなります。結果として、オンラインは私たちの目的が達成できない手段といえます。

- 直接の出会い、顔の見える関係性が大切ということですね。β本町橋では、公共の場を使っていろいろな主体のネットワークをつなげて、様々なモノやコトを生み出したいと考えています。学生や若い人たちの出会いやチャレンジの場になることも目指しています。

(堂野)

これまでのe-よこ会の活動があるので、一緒にやろうという団体もいろいろ出てくるんじゃないでしょうか。15年間の活動の積み上げで既にネットワークがあることが何よりの強みですね。

クリエイターにも、川からの風景を発見してほしい。

- メビックのちょうど対岸に、今年の夏、水辺拠点『β本町橋』がオープン予定です。メビックとの連携や、川とまちに開かれた施設であることに対して、可能性を教えてくださいませんか。

(堂野)

50歳からマラソンを始めたので、すぐ下にランニングステーションできるのは嬉しいです。メビックにはランニングクラブがあるので、その練習時にも活用したいです。メビックで行っている「クリエイティブクラスターミーティング」を船で行うのもいいですね。

- 大阪は道頓堀、木津川、土佐堀川・堂島川、東横堀川が口の字でつながり、水の回廊と呼ばれています。水辺の活動体験などはありますか。

(堂野)

船で東横堀川を通ったことがあるのですが、川から見た風景にいろんな発見があり面白かったです。例えば東横堀川水門。パナマ運河のように水位調整を行って船を通行させていることなど、水門に行ったことがなければ誰も知りませんし、知ったらビックリするところだと思います。ご来光や夜景など、時間帯によっても楽しみ方が広がりそうですね。クルーズの後には必ずアンケート調査で情報収集を行なって、収集した意見を今後の水辺づくりに盛り込めると面白いんじゃないかと思います。

- 東横堀川水門は、クルーズでも一番の人気スポットです。東横堀川はほぼ全部が阪神高速道路に覆われているので、真夏の暑さも苦にならず、雨の日も大丈夫という声もあります。

(堂野)

陸から見ているだけでは、暗さや汚さの印象をうけそうですが、クリエイターに川に降りてきて風景を見てもらうようなツアーを作ってもらいたいと思います。

- メビックともしっかりと連携していきたいです。本日はどうもありがとうございました。



【新型コロナ感染対策をした中でのセミナーの様子】